

第4回芸術会館美楽来美術品収集懇話会 会議記録（要約筆記）

日 時 令和2年2月26日（水）午前10時～
場 所 生駒市芸術会館美楽来 セミナー室1
参加者 天根俊治（奈良芸術短期大学副学長）
松村清孝（奈良市杉岡華邨書道美術館学芸員）
中田好昭（教育長）
事務局 八重生涯学習部長、梅谷生涯学習課長、谷江生涯学習課主幹兼生涯
学習文化係長、小関生涯学習文化係員、辻本生涯学習文化係員

1. 開会（事務局）

事務局より会議非公開の説明

（平成24年6月開催の第1回懇話会にて、議事録を後日公開することで会議の透明性を担保するという決定に準じ引き続き非公開）

参加者了承

座長選出：互選により中田教育長 選出

座長挨拶

2. 案件

案 件 | 「収集作品に対する意見及び助言について」

座 長：絵画作品6点についての意見を求める。

事務局より作品の説明

参 加 者：収蔵には作家一人当たり何点までという決まりはあるか。

事 務 局：特に決まりはありません。

座 長：現在、平本氏の今回以外の作品点数は。

事務局：8点。一番多く収蔵しているのは西川（信一）氏。

参加者：平本氏はたぶんポール・アンビュー氏の影響を受けて作家活動に入られたような感じ、作品のようだ。

顔の中身の、目とか鼻とか、顔の無い絵を通して自分の思いを伝えていくと。つまり、そのポール・アンビューという人の表現で、その方の影響をより日本流にしていっていった感じだ。

もう一つ、平本氏の所属されていた「日本表現派」というのはたしか昭和33年あたりに結成された会派で、ヨーロッパ系統の考え方の人が集まってできた会派だったと。日本の伝統的な会派といった、すぐパッとひらめいてくるような会派ではないとは思いますが、ヨーロッパ系統の会派としては比較的しっかりしている会派だと思う。

参加者：前回平成29年の7点の作品は「ル・サロン」での出品作で、平成14～22年までの作品だったと思うが、今回の作品を見ると前回の作品より若い時、①と②は平成3年から5年、その頃に描かれたもので、③は平成6年ということで、その辺の作品は前回の作品から時代的にも変化があっただけのことか。

1人の作家を時系列的にみるとどんどん作風というのはやはり変化していくので、今回の作品の初期の作品はかなりゴツゴツした感じの、色のタッチというのも荒々しい感じがするが、平成13年頃からどちらかといえばしっとりとした感じの作風に変化している。時代とともに作家もどんどん変化していく。それを後世に残してみただけになると、やはりそういう作家性が変わっていくところをみていただけると、それは非常に大事だと思うので、今回違う時代のものが入るのはいいことかと思う。

また、前回のものは同じ展覧会の作品だったが、書の世界であれば、たとえば日展で出すものはかなりかっちりしたものを出すのが、別の展覧会、自分の会派の展覧会では挑戦的なものを書いてみるなど、同じ作家でも出す展覧会ごとに作品・作風がちょっとずつ違う場合がある。今回の④⑤⑥は平成13～16年頃の作品で、前回の作品と重複する時代にはなるが、違う展覧会でどのような作家性を発揮し、画風に変化があるのか見てもらうのも、ひとつの点と線、そこから面に広がる

ような、作家性を感じる大事な要素かなと思う。

また、平本氏はかなり平和とかそのような社会性のあるテーマを志していたように思うので、③⑤⑥は「終戦」であるとか、「9.11」だとか、そのような時代性を表現した、思想性の豊かな作品ということで、この作家のかなり特徴的な面を象徴している作品だと思う。

前回の収蔵作品と合わせて収蔵されるというのは、一人の作家を網羅的にみる上で非常に面白いと思う。

座長：ありがとうございました。

参加者：お話があったように、画家というものは同じものを見ていても、自分の考え方がどんどん深まれば深まるほど表現が変わってくるようだ。それがおっしゃるように、その作家がどういう社会で、どういう考えで、何を訴えたか、というのをずっと時系列的に文章で刷り上がったように並べていくと、芸術の面白さがあると。だから、展覧会とか、西洋の出展とかいっぱいあるが、それをひとつとしてみるのではなくひとつのラインとして、それを並べたらその人の作品ということでもいい展示ができると思う。

座長：そこは展示時にあたって注意してもらえたら。

参加者：作品が大きいというのはあるが。

事務局：7割程度、収蔵庫は埋まっているが、まだ余裕はある。

座長：では、受け入れは大丈夫ということで。

それと展示する場所。展示の計画とか、やはり今回そのような絵の見方もご提案いただき、できれば年代ごとに、おっしゃる8月15日、9月11日、今年は既に予定があるとは思いますが、絵のテーマが背景にある形で展示をしたら一番いいと思う。展示にそのようなコメントを入れるのもいい。つまりは個々の展示の組み方で、そのような展示の組み方もあると。

参加者：やはりせっかく生駒で収蔵されて、一人の作家用の建物は無理だとしても、例えば企画展の中に入れて、同時にこの近くでしたらたと

えば市はまたがるが（奈良市にある）松柏美術館とかとタイアップして、あそこ行って、ここ行って、ここ行って・・・ここ（生駒市芸術会館美楽来）もありますよというような。美術愛好家というのは一つ見たら「他も行ってみようか」となる。より寄贈された方の思いも汲め、やはりこの作品を生駒市芸術会館美楽来が持っていたという認知にもなり、そのような取り組みをしたらよいと思う。やはりせっかくいい作品を収蔵されているのだから。

座 長：近隣とタイアップ、そういう発想はなかった。
平成13年に開館してからの館の知名度アップにもなり、作品も同様。

参加者：平本氏の作品もだが、それこそ書道とかも。バランスよく。

座 長：そうですね。勉強不足なのかもしれないが、やはりせっかくいただいたものをどう生かすか、どう見てもらうかコツがいるということですね。ありがとうございました。

参加者：価値ある作品もいいが、今価値が無くても時系列に並べて価値がでてくるものがあれば、と。

座 長：整理してあげることで出る価値もあると。貴重なご意見をありがとうございました。
それでは、いただいたご意見も踏まえ、すべて収集する方向で進めてもいいかと思う。

参加者：一同承諾

案件2「その他」

座 長：次にその他について、何かありますか。

事務局：今回収蔵いただくものも含め、来年度指定管理者と企画し、展示会的なものを考えている。決まればご紹介させていただきたい。

座 長：他に何かありますか。

参加者：特になし

事務局から本日の会議でいただいた貴重なご意見を参考に、教育委員会で受贈の判断をする旨を説明

以上

会議終了